

特集

モノづくりとダイバーシティー
ー多様化する金型・部品の製造現場ー

難加工でも社員とともに完遂する 達成感と顧客の喜びが経営の支え

(株)タイショーテクノ

精密部品加工メーカーのタイショーテクノは1946年に家庭用・特殊工業用ミシンの販売で創業し、12年後にマシン部品、16年後には大手自転車部品メーカー・シマノの協力工場として自転車部品の製造を始めた。当初は板金プレス加工が主であり、1960年代半ばの冷間鍛造プレス機導入を足がかりに、1980年以降に本格的に精密冷間鍛造に取り組み始め、その量産化に成功するなど常に新たな技術に挑戦することで業績を伸ばしてきた。

現在、自転車部品、ベアリング部品、産業機械部品



岡室養子代表取締役

会社概要

(株)タイショーテクノ

精密冷間鍛造、板金加工、金型設計などにより、精密部品の試作開発から量産化実現までをトータルでプロデュースする。

本社：大阪府和泉市テクノステージ 1-5-2

URL：<https://www.taishotechno.co.jp>

などの鍛造品を製造する同社の強みは、精密冷間鍛造でニアネットシェイプ・ネットシェイプ加工を可能にしたことで、トータルコストの低減、リードタイムの短縮、製品の高精度化を実現していることにある。

7年で赤字経営を脱却

同社の岡室養子代表取締役（以下、社長）は、創業者の三女として生まれ、短期大学の英文科を卒業後に単身で欧州に渡り、そこでの生活を経て帰国後に結婚。地域の人から乞われて中高生向けの英語塾を開き、そのかたわら調理師免許を取得してレストランの開業を計画していた。しかし、赤字経営に陥った実家から呼ばれ、家業を立て直すため1980年に社長代行に就任。7年間で赤字を解消して1991年に現職となった。

創業者の父はベテラン社員の一人に継がせるつもりでした。私も継ぐ気などまったくありませんでした。ただ、母は4姉妹の中で私が適任だと思っていたようです。幼い頃からラジオを分解したり、ミシンの修理を興味深げに見たりしている子供だったからでしょう。

岡室社長が社長代行として入社した1980年当時、同社は苦境にあえいでいた。それを覚悟で入社はしたが、想像以上に大変な状態であり、その打開のため、それまでどんぶり勘定だった経営を数字で把握できるようにと改革に着手した。

まずは分析ソフトを導入していた会計事務所に経営分析してもらいました。本来、分析サービスには1回で15万円の費用がかかりましたが、“もうか